

【同窓会 延期】

## 第4回 短大15回生の集いを断念

西久保 直嗣(短大15回生)

寒波・コロナの波が打ち寄せては引く難しい季節のなか、4年に1度開催しようと約束し、2010年・2014年・2018年と開催してきた「短大15回生の集い」を断念することになりました。2020年から始まったコロナウイルスとのせめぎ合いは、アルファ株・ベータ株・ガンマ株・デルタ株そして2021年の年末よりオミクロン株と続いてきました。ワクチン接種による効果も見えるなか3回目の接種も終わりました。私たち診療放射線技師の関わる部分としては、デルタ株までの感染患者の肺下葉の器質化を反映した索状影であった

CT画像から、オミクロン株はインフルエンザ肺炎などウイルス性肺炎と同じ画像を呈するようになってきており、CT画像でのCOVID-19の評価にも変化がでてきました。

私は、COVID-19が騒がれた頃に奈良県の「社会医療法人 高清水 高井病院」を退職し、「公立学校法人 奈良県立医科大学附属病院」に就職しました。今まで着たこともない感染防護服を身に着け対応することになり、入って間もない技師歴14年目の私には戸惑うことの連続でした。市中病院では、コスト意識を持ちながら検査・業務を行うことと放射線科医にすぐ相談できる環境でないなかで考えながら検査することを学ばせていただきました。現在働いている大学病院では、感染防護・感染予防策を一から知ることができ、市中病院ではなかなか撮影しない乳幼児・新生児のMRI検査や造影CT検査を経験することができ、毎日新しい発見と緊張感のなかで仕事をしています。

COVID-19により勉強会や学会が現地に行かずにweb上で参加できるようになった今日ですが、「短大15回生の集い」は東京オリンピックが1年延期されて開催されたように1年延期で開催され、今回私が書かせていただいた近況報告や情報交換をみんなでおいしい食事とお酒をいただきながらできることを楽しみにしたいと思います。

最後にはなりませんが、今回このような機会をいただき学友会・先生・在学生の皆様により感謝申し上げます。

以上

---

\*通巻243号 2022年4月10日発行(2021-No.1より)